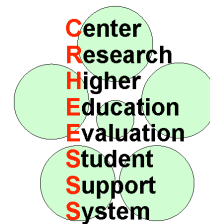


# 週刊センターニュース No.318



第318号(2010年7月26日) 毎週月曜日発行  
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL：<http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

## ○●○ 「アジア高等教育圏」について ○●○

さる6月26日(土)、27日(日)に神戸大学において開催された第46回日本比較教育学会に参加し、高等教育に関連する研究部会を中心に、複数の報告を聞いてきた。昨年についてもいえることであるが、主要な報告内容として、①ボローニャ・プロセスの進展状況とそれに関わる質保証や大学連携などの具体的な取組、②アメリカ・豪州などのIR(Institutional Research)の仕組みやその展開③留学生政策動向、そして④(環太平洋)アジア地域の高等教育圏の形成およびトランスナショナル(国境を越えた)教育、の4つに集中する傾向にある。本稿では、このうち最後のアジア高等教育圏の可能性について少しふれてみたい。

以前にも紹介したCampus Asia構想や大学の国際化戦略の下、各国や大学による様々な取組が進められている中で、関係者が今とくに必要としているものは、単位制度、成績評価や単位互換制度、それらを含めた公的な質保証システムのあり方等の基本情報にあることは疑い得ない。

研究部会での報告の1つ(「ASEAN + 3におけるACTS(ASEAN Credit Transfer System)を使ったアジア高等教育圏の発展の可能性」、研究代表者：堀田泰司・広島大学)によれば、研究対象国(うち一部を紹介)における状況は、次の通りである。

日本：単位制度、単位・成績の互換制度については制度的にはかなりの程度整備されているが、多くの大学で、単位互換や成績評価の決定は部局レベルで行われるが、大学としてその実態を十分に把握していないところもあり、部局間での扱いに違いが生まれる可能性を含んでいる。また大学院教育で、科目履修条件や論文に関する単位の扱いについても、ダブルディグリー・プログラムなどを実施する上で問題となる部分が残されていると指摘する。

中国：学士課程および大学院教育のいずれにおいても、卒業に必要な単位数について国家による統一規定が存在しないために、個々の大学に任せている状況にある。また単位互換に関わって、海外の大学での取得単位認定が、大学によって異なっている(約3500校という膨大な高等教育機関数とその多様性が、問題を複雑化する要因にもなっている)ようで、こうした実態が、今後中国の大学との交流を進める上で問題を孕んでくるものと推測される。

ラオス：国家教育制度改革戦略により高等教育を国際水準に押し上げることを目指しているが、海外機関との単位互換等はベトナムと国家レベルで協定が締結されたばかりで、大学の取組はこれからという状況にある。国立大学ではベトナム・タイ等の共同プログラムが試行され、成績評価制度等の情報公開を積極的に進めているが、大学間での差が非常に大きいという。

ベトナム：ほぼ全国の大学において、海外高等教育機関からの単位の互換に関する規則が確立しておらず、その手続きはケースバイケースで、また認められている大学についても、学部・専攻によっ

て対応が大幅に異なる状況にある。

タイ：上記のラオスやベトナムに比べ、法改正と様々な改革を通じて、単位制度・成績評価、単位互換制度、学位の認定基準など、高等教育システム全体の体系化が非常に進んできている。ただ、海外高等教育との交流を活性化するために、制度面だけでなく、教育プログラムをさらに向上させる必要がある。

上記で取りあげられているものだけ見ても、各国の教育環境は大きく異なっており質の保証を伴った学生交流を実施するために、単位互換制度などを導入し、相互理解を深め、交流を促進していくことはなかなか困難であるとみることができる。しかし、各国や大学が、今後こうしたアジア高等教育圏の発展の可能性に期待しているのも事実であり、今後各国が各大学レベルの教育プログラムについて評価し、課題がある場合は是正し、その状況についての情報を相互に共有する必要があることはいうまでもないであろう。

(文責 評価システム研究部門 渡辺 達雄)

### 〇〇〇 新着図書のお知らせ 〇〇〇

大学教育開発・支援センターに、下記の図書が入りました。図書室（総合教育1号館6階613号室。センター共同研究室向かい）に所蔵しております。ご関心のあるもの、参照したいものがございましたら、お貸しすることができますので、ご連絡いただければ幸いです。

大学評価・学位授与機構編著- 大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ

- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構（編著）『大学評価文化の展開－高等教育の評価と質保証』平成19年6月、ぎょうせい
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構（編著）『大学評価文化の展開－評価の戦略的活用をめざして』平成20年3月、ぎょうせい
- ・ 川口昭彦著、独立行政法人大学評価・学位授与機構編集『大学評価文化の定着－大学が知の創造・継承基地となるために』平成21年5月、ぎょうせい
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構（編著）『大学評価文化の定着－日本の大学教育は国際競争に勝てるか？』平成22年5月、ぎょうせい
- ・ 全国聴覚障害学生支援ネットワーク著、金澤貴之ほか編『一歩進んだ聴覚障害学生支援』2010年、生活書院

### 〇〇〇 前期「角間ランチョンセミナー」終了 〇〇〇

平成22年度前期の「角間ランチョンセミナー」は、先週をもちまして、全ての日程を無事に終わることができました。4月12日より毎日開催し、のべ62回となりました。ランチョンセミナーに参加して下さった皆さん、また様々なテーマの下、ご報告をして下さいました学生・教職員の方々、テーマ企画に快く応じていただきました各部局の方々に対し、心から感謝申し上げます。

後期のランチョンセミナーは、随時開催の予定です。部活動・サークルにおける日頃の活動成果を発表したり、卒論等の研究発表の場としても活用できます。今後とも宜しくお願い致します。

お問合せ：大学教育開発・支援センター（担当：渡辺）

TEL:076-264-5793 Email: tatsudesu@ge.kanazawa-u.ac.jp